

海外からの編入生 迎える手引

学校向けサイト開設

JTMとくしま

徳島県内に住む外国人の日本語習得を支援する市民団体「JTMとくしま日本語ネットワーク」は、海外からの編入生を受け入れる小中学校向けに、学級運営の手引となるウェブサイトを作った。言葉や生活習慣の違う子どもが学びやすくなるための環境づくりのポイントをまとめている。

JTMとくしまが作ったサイト「外国にルーツを持つ子どもの受け入れ手引き」



環境づくりの要点整理

JTMが作ったサイト「外国にルーツを持つ子どもの受け入れ手引き」は、海外からの編入生を受け入れる際の教職員への心構えや実践方法などを整理した。学級担任の役割を示した項目では、子ども同士の意思疎通を図るため、編入生の国の言葉や文化を学ぶ学級活動を積極的に行うよう勧められている。日常会話に比べて難しい言葉を使う授業の内容を、理解できない子どもが多いことも指摘し、きめ細かい日本語指導の必要性を説いた。授業参観や衣替えなど保護者向けの通知書類については、日本語を十分理解できない親にも伝わやすい文例を紹介。子どもの出身国として多い中国やフィリピンなどの名は「徳島県 外国にルーツを持つ子どもの受け入れ手引き」を、県教委によると、県内の外国人児童・生徒や帰国子女は近年増えつつあり、2012年度は前年比14%増の124人。JTMは、県内に住む外国人の日本語指導に取り組む中で、「子どもが学校の授業に付いていけない」「一学校からの通知はどれが重要か分からない」との声を多く耳にする。このことから、サイトを作った。兼松文子会長は「外国の子どもを受け入れる不安は多いと思うが、異文化を知るプラスの機会と捉えてほしい。サイトが教員の負担軽減につながるべし」と話している。

(廣井和也)